



令和7年9月3日

担当課	環境政策課
担当者	根来、勝本
電話	073-435-1114
内線	2618

地下水の有機フッ素化合物調査結果について

有機フッ素化合物である PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）及び PFOA（ペルフルオロオクタン酸）は、泡消火剤や電子基板製造等、多用途で使用されてきましたが、人や動物への毒性や蓄積性が明らかになり、環境中での検出事例が注目され始めている化学物質です。

令和2年5月に要監視項目へと位置づけられ、PFOS 及び PFOA の合計として1リットル当たり50ナノグラム（50ng/L）の指針値が設定されています。

本市では、令和6年度から地下水の水質調査として有機フッ素化合物濃度を測定しており、今年度も「概況調査」として市内一円の15地点を、また「モニタリング調査」として令和6年度に指針値超過が判明した3地点の調査を行う予定です。

今般、令和7年5月及び7月に行った水質調査の結果が以下のとおり判明しましたのでお知らせします。モニタリング調査のうち黒田では、引き続き指針値を超過しているため、周辺の井戸では飲用を控え、水道水等をご利用ください。

概況調査結果

PFOS 及び PFOA (ng/L)

採水日	採水場所	今福	西	永山	紀三井寺	小瀬田
5月29日	濃度	6.1	3.6	2.6	4.1	3.5
採水日	採水場所	加太	本脇	市小路	野崎	東坂ノ上丁
7月30日	濃度	8.5	34	6.6	17	50

モニタリング調査結果

PFOS 及び PFOA (ng/L)

採水日	採水場所	園部	黒田
7月29日	濃度	36	<u>73</u>

※各地点周辺の指針値超過推定範囲（令和6年度）は、本市ウェブページをご参照ください。
https://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gomi_kankyo/1001115/1061010.html

なお、残りの地点（概況調査5地点及びモニタリング調査1地点）については、本年9月に実施予定です。

■ 地下水（井戸水）利用の際の留意点

これら調査結果にかかわらず、飲用には水道水を使用し、井戸水利用時には1年に1回以上の詳しい水質検査を実施するようお勧めします。なお、洗たくや入浴など、飲用以外の利用については問題ありません。